

1 事業概要

事業の名称	神代植物公園		評価該当要件	10年間継続	4回目
実施主体	東京都(建設局)	事業所管部署	公園緑地部公園建設課		
都市計画決定(当初)	昭和32年度	事業認可年度(当初)	昭和32年度		
都市計画決定(最新)	昭和32年度	事業認可年度(最新)	平成26年度	事業期間: S32年度~R3年度	
事業箇所	東京都調布市深大寺元町五丁目ほか	事業規模	56.62ha	完了済みも含む	
事業概要	東京都で唯一の植物公園として、植物園機能の充実の他、レクリエーション空間の創出、自然環境の保全と活用、防災機能の拡充等を図る。				

2 社会経済情勢等の変化(事業の必要性等に関する視点)

社会経済情勢等の変化 (認可時点から変化がある場合は変化・変更内容欄に記載)
(人口1人当たりの公園面積) 調布市の人口1人あたりの公園面積(供用面積)=5.53㎡(R1.3.31時点) ※都市公園法第1条の2に定める人口1人あたりの公園面積標準=10㎡
(生物多様性) 日本植物園協会に「地域野生植物保全拠点園」と認定され、絶滅危惧種の保全活動を推進。植物多様性センターを開館し、情報発信や普及啓発も行っている。
(防災) 近年、大地震や集中豪雨など大規模な災害が発生していることから、社会の地震の防災意識は高まっている。平成15年の東京都地域防災計画の修正により、芝生広場が震災時に広域支援・救助部隊等のベースキャンプとして活用する大規模救出救助活動拠点として位置づけられた。

3 事業の投資効果(事業の必要性等に関する視点)

定量的効果 B/C	2.8		
現在価値化総便益額(B)	3459.6億円	現在価値化総費用額	1240.2億円
直接便益	411.8億円	工事費	78.2億円
間接便益(環境)	1078.3億円	用地費	792.2億円
間接便益(防災)	1969.5億円	維持管理費	369.8億円
定性的効果	植物園機能の充実、レクリエーション空間の創出、生物多様性への貢献(自然環境の保全と活用)、防災機能の強化		

4 事業の進捗状況(事業の必要性等に関する視点)

事業費の執行状況 (R1年度末時点)			
	用地費	工事費	合計
全体事業費	80,638百万円	6,730百万円	87,368百万円
執行済額 (執行率)	74,977百万円 93.0%	5,591百万円 83.1%	80,568百万円 92.2%
用地取得状況 (R1年度末時点)			
取得予定面積(A)	既取得面積(B)		用地取得率(B/A)
56.62ha	53.49ha		94.5%
都市計画上の用地取得状況・供用面積(R1年度末時点)			
都市計画決定面積	既取得面積 (率)		既供用面積 (率)
100.32ha	55.97ha (55.8%)		47.53ha (47.4%)
一定期間を要した背景、地元の理解・協力の状況			
未取得地の多くは生産緑地であり、営農者の生活基盤となっていることから、地権者の売却以降に配慮しつつ、用地取得を進めている。			
事業の進捗状況・残事業の内容			
用地取得率は9割を超えており、年数を要してはいるが、概ね事業は順調に進んでいる。			

5 事業の進捗の見込みの視点

事業の実施のめど、進捗の見通し等
用地取得率は9割を超えており、年数を要してはいるが、概ね事業は順調に進んでいる。

6 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性
(コストの縮減) リサイクルの推進や維持管理が容易な設備(汎用品)の導入を検討していく。
(事業手法、施設規模等の見直しの可能性) 取得予定区域の9割を取得しており、施設規模の見直しの可能性はない。
その他のコスト縮減の取組

7 対応方針案

総合評価	○植物園機能の充実やレクリエーション空間の創出を実現している。 ○絶滅危惧種の保存や、植物多様性に関する教育・普及のための施設を整備し、生物多様性に貢献している。 ○マンホールトイレ等の防災施設を整備し、防災機能を強化している。
対応方針案	継続